



福島の子どもたちと
家族の笑顔のための保養プログラム

福島ぽかぽか プロジェクト

2017年度報告書

□福島ぽかぽかプロジェクト事務局：国際環境 NGO **FoE Japan**

〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9 TEL：03-6909-5983

担当：矢野恵理子 090-9364-6472 eri8888yano@gmail.com

□運営団体：渡利の子どもたちを守る会 / 福島老朽原発を考える会（フクロウの会） / 国際環境 NGO FoE Japan

□協力：公益財団法人共生地域創造財団 / 福島に心を寄せる房総の会



福島ぽかぽかプロジェクトは、子どもたちがのびのび遊び、お母さん方が悩みを分かち合う場を提供しています。

2017年度の 「ぽかぽか」報告

2012年1月よりFoE Japanは他団体と協力して土湯温泉で福島のおやこのために週末保養「福島ぽかぽかプロジェクト」（以下「ぽかぽか」）を開始しました。2013年より猪苗代と南房総の2か所で年7回から10回開催し、2015年1月からは猪苗代の元ペンションをFoE Japanで借り受け、「ぽかぽかハウス」として整備、保養プログラムを開催しています（p.7 ぽかぽかプロジェクトの背景と経緯参照）。

6年目を迎える2017年度、ブログでの広報のみで、希望者があふれてしまい、8回のプログラムに希望者全員に来ていただくことはできませんでしたが、265名の方が参加されました。

帰還政策により避難から戻られた方、浜通りの方、原発事故後に出産された方々が、今までの参加者のご紹介で、広い地域から集まってきます。

福島で暮らすこと、子育てすることを選んだお父さんお母さん方は、普段は何事もないように暮らしていても、被ばくや健康への不安を心の中に抱えています。

子どもたちが安心して外遊びできる環境も重要ですが、保護者の方々が、不安や悩みを話せたり、共有したり、情報を得たりする場として、ぽかぽかプロジェクトは事故後8年目を迎えた福島にとっても重要なプログラムとなっています。

2018年度は、参加者が、自主的に参加者集め・計画・企画・運営を行い、食材支援やボランティア手配を事務局がお手伝いする、「自主ぽかぽか」を募集しました。早速3チームから声が上がりました。これからできるだけ長く、できるだけ多く開催してほしいとの福島のみなさんの要望を実現するために、自主的に開催する回数を増やしていきたいと思っております。

2017年度実施報告

★ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業

保養プログラム

2017年	4月29日	～30日	(1泊2日)	27名	猪苗代
	5月3日	～7日	(4泊5日)	31名	猪苗代
	6月10日	～11日	(1泊2日)	29名	猪苗代
	7月15日	～17日	(2泊3日)	34名	猪苗代
	8月11日	～17日	(6泊7日)	27名	南房総★
	11月18日	～19日	(1泊2日)	31名	猪苗代
2018年	1月5日	～8日	(3泊4日)	38名	猪苗代★
	3月24日	～26日	(2泊3日)	48名	猪苗代

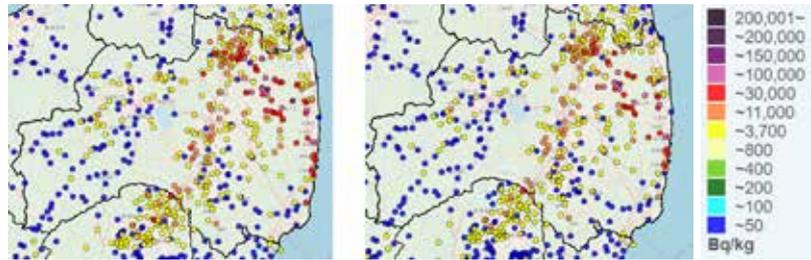
その他のイベント

2017年	7月1日	～2日	ぽかぽかハウス	消防点検
	10月7日		高校生講演 in 東京	(主催：むさしのスマイル)
	10月21日		活動報告会 in 福島	



福島は今

- 1 空間線量は確かに下がりましたが、土壌汚染はまだ続いています。



土壌汚染比較 (2011年) (2018年)
参照：みんなのデータサイト <http://minnanods.net/soil/aboutsoil.html>

- 2 通学路も除染をしましたが、毎時 $0.23\mu\text{Sv}$ を超える場所がたくさんあり、子どもたちはそこを毎日通学しています。



除染後の通学路空間線量
2016年9月11日
福島市立渡利小学校 校門前通学路
(左地上10cm 右地上100cm)

2017年4月16日
福島市立清明小学校通学路
(左地上10cm 右地上100cm)

参照：NPO 法人シャローム 災害支援センター
福島放射線測定情報サイト

- 3 福島県産の農産物は全て測っているから安心？

しかし基準値以下のセシウムであっても、毎日摂取することにより体内に累積的に蓄積されることが懸念されます。

- 4 区域外避難者の皆さんは災害救助法に基づく住宅支援が打ち切りになり、経済的に非常に苦しい状況です。中には、帰還を選択した方々もいます。

- 5 原発事故子ども被災者支援法の基本方針で予算化された「ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業」の予算は年々減っています。

平成26年度実績	339,497千円
平成27年度実績	349,342千円
平成28年度実績	339,265千円
平成29年度予算	234,449千円
平成30年度予算	170,998千円

参照：文部科学省

- 6 多発する甲状腺がん

2011年より、福島県は県民健康調査で当時18歳までの子どもたちの甲状腺がん検査を行ってまいりました。3巡目まで終わったこの調査で、197名が甲状腺がん又は疑い、そのうち159名が手術をしました。

- 7 「福島は安全です」復興キャンペーンの中、放射能に関して話すことがタブー化されています。

被ばくの心配や健康への不安を心の中にしまい込んでいる方々にとって、同じ思いの方々と出会い、気にせず話ができて、情報を交換する場としての保養の意義が大きくなっています。

「ぽかぽか」が大切にしていること

いろいろな考え方があって良い

放射能に関しても、子育てに関してもいろいろな考え方があります。「ぽかぽか」は、避難したくても家の事情でできなかった人や、避難から帰ってきた人、保養が必要だと思っている人、そうでない人、いろいろな考え方を認め合うことにより、自分の考え方を伝えることができる環境を大切にしています。子育てもおなじです。一人として同じ子どもはいません。障がいがある子もそうでない子ものびのびと過ごせる環境を目指しています。

子どもたちの健康のために

数日の保養で体内からのセシウムがすべて排出されるわけではありません。ぽかぽかでは、共生地域創造財団のご協力により、西日本中心のお野菜や果物、安心安全な添加物の少ない食材のご支援をいただき、免疫力を上げるために野菜たっぷりバランスの良い料理をみんなで作ることを通じて「食」について学びます。

毎年3月に行う発酵食品の勉強をしながらの味噌作りは大人気です。

公益財団法人共生地域創造財団は、ホームレス支援全国ネットワーク・グリーンコープ共同体・生活クラブ生協の3団体が協働して設立した被災者支援共同事業体です。

まずは知ること

様々な情報の中から、自分にとって大切な情報を得るために、そして隠されてしまう情報を知るために、専門家をお呼びしてのセミナーや相談会を開催します。通学路の放射能測定値や公園のホットスポットを知ること、普段の生活で気を付けなくてははいけないことが見えてきます。

「自主ぽかぽか」の試み

自分たちがやりたい日にやりたい企画で「ぽかぽか」を実現するために、2018年度から「自主ぽかぽか」を始めます。企画・連絡・実施まで参加者自らが中心になって行い、食材支援とボランティア支援、資金を事務局が応援します。これから一日でも長く、一回でも多く保養を継続するための試みです。



食事風景（ぽかぽかハウス）



小糸川上流滝つぼ（南房総）



クラゲの世界（鴨川シーワールド）



お散歩（ぽかぽかハウス近隣）



ロープ講座（南房総）



栗の木の下（ぽかぽかハウス）



英語のレッスン（南房総）



お姉ちゃんとそり遊び（猪苗代スキー場）

ぽかぽかボランティア参加の高校生、 東京で講演



3.11当時、小学校5年生だったHくんKくんも今は高校3年生、「ぽかぽか」の参加者から高校生ボランティアになって、今は無くしてはならない大きな存在です。

二人は、2016年春にドイツ交流事業で訪独したメンバーでもあります。

10月7日むさしのスマイルが主催するイベントに招かれ講演を行いました。

Hくんは、多くの人が放射能で汚染されると切り出した後、お母さんが少しでもリフレッシュさせようと保養を探してくれたこと、小学校6年生から毎年参加し、高校になってボランティアとして参加していること、そこで将来の夢を保育士に決めたこと等話してくれました。

また、ドイツに行った時に福島原発作業員と出会い、東京で使う電気を作っていた福島第一原子力発電所の危険な廃炉作業を福島の人たちが担っていることを初めて知ったと話しました。

そして、そのことを学校で報告しようとしたときに、先生から健康被害や影響に関する除くように言われたことや、大学入試のために放射能に関してのレポートを書いたら、時代遅れと言われてしまったこと等、放射能の理解が深まっていないと話を締めました。

Kくんは、3.11地震がおこった時に先生に怒られていた瞬間だったこと、妹と二人、電気の止まっていない地区の親戚の家に泊まり、その後祖父母の家で井戸水を一生懸命汲んだこと、原発事故の情報で井戸の水汲みや外遊びを禁止されたこと、小学校5年生の自分には親は詳しい説明をしなかったし、されてもわからなかったと思っていることを話してくれました。

外遊びを禁止されてもこっそり抜け出して外で遊んだこと、友人が引っ越して行ってしまったこと、所属のサッカーチームの合宿や練習が県外で行われるため、遠征費用で親に負担をかけてしまったことを申し訳なく思っていました。

そして、中学で「ぽかぽか」に参加したこと、高校生になり、ボランティアとしての参加、またサッカーのクラブチームの遠征で引っ越した友人に会えた喜びなど話してくれ、原発事故や地震の恐ろしさは知っているけれど、津波被害で辛い経験をしている人たちに何かできる人になりたいと話しました。

参加者の声

いつもありがとうございます。自分一人ではどうすることもできない問題なので、皆様のご寄付、ご支援には助けられ、励まされております。感謝の気持ちを伝えたいです。ぽかぽかは私と家族にとって、本当に貴重で助かっています。

震災から7年以上が経ちました。不安はまだ続いています。食品への不安、親はともかく子どもの健康への不安、個人差あると思いますが、まだまだ不安があります。

福島は福島の放射能汚染はもう解決したもので大丈夫だと話していますが、ホットスポットなど高い場所は福島にまだ沢山あります。そんな場所で遊ばせたり、普通に生活していても、空間線量が0.1以上ある福島市なので、まだ保養が必要だと私は考えています。

福島子どもたちにはこれからずっと試練が待っています。保養は地域の救いなのです。

福島で子育て中の親たちは、様々な家庭の事情で、心配しながら、我慢しながら、あきらめながら…の生活だと思います。みんな子どもを育てることに必死です。3.11を忘れるはしませんが、気持ちの奥に閉じ込めて生活している状態です。そんな中、ぽかぽかのような場に参加できることは癒しであり、本音を話せたり、考えを共有できる貴重な場所です。どうか「福島の子どもとその親たちに笑顔を！」を実現しているぽかぽかへのご支援をよろしくお願いいたします。



ぽかぽか プロジェクトの 背景と経緯



雪遊び (ぽかぽかハウス)



近隣散策 (猪苗代磐椅神社大鹿桜)



絵本の読み聞かせ (ぽかぽかハウス)



アスレチック (リステル猪苗代)



料理風景 (南房総)

FoE Japan は、原発事故直後から、避難基準として採用された年 20mSv は撤回し、少なくとも公衆の被ばく限度「年 1mSv」以上の地域については、避難してもとどまっても支援・賠償が受けられる「選択的避難区域」を設けて、幅広く「避難の権利」を認めるべきであると、運動を展開してきました。しかし、日本政府は「年 20mSv 以下の地域では避難の必要はない」という方針を変えず、結果として、避難したくてもさまざまな理由で避難できない人たちが取り残されてしまうという事態が生じました。

こうした事態を受け、FoE Japan は、他団体と協力して 2012 年 1 月より「福島ぽかぽかプロジェクト」という週末保養プログラムを開始しました。2012 年度、土湯温泉での保養には総計約 2500 名が参加しました。

2013 年 4 月より、拠点を土湯温泉から猪苗代に移し、対象を福島県全域に広げました。

現在、猪苗代での週末保養・千葉県南房総での春・夏の長期保養を含め、年 7 回～ 10 回保養プログラムを実施しています。2013 年からの参加者は累計 1045 人となりました。

2015 年 1 月より、猪苗代での保養の拠点にしてきた元ペンションを FoE Japan が借り受け、「ぽかぽかハウス」として、他団体の保養プログラムにも活用しています。現在では、「ぽかぽかプロジェクト」に参加した子どもたちが成長し、高校生ボランティアとして関わっています。2016 年 4 月には、高校生たちがドイツに滞在し、ドイツやベラルーシの若者たちと交流しました。

また、2018 年には、ぽかぽかユースチーム（小学校高学年から高校生まで）を立ち上げ、大学生が中心となってエネルギーワークショップを開催したり、再生可能エネルギーについて学んだり、発電所見学を計画しています。子どもたちが視野を広げ、生きる力を身につける場所になることを目指しています。

「福島ぽかぽかプロジェクト」ブログ
<http://ameblo.jp/pokapro/>

2018年度 実施計画



保養プログラム

2018年	4月28日	～30日(2泊3日)	猪苗代	*ふくしまっ子自然体験・交流活動支援事業予定
	5月3日	～6日(3泊4日)	猪苗代	
	7月14日	～16日(2泊3日)	猪苗代	
	8月6日	～9日(3泊4日)	猪苗代(自主ぽかぽか)	
	8月19日	～25日(6泊7日)	南房総*	
	8月末ごろ	(3泊3日)	猪苗代(自主ぽかぽか)	
	11月23日	～25日(2泊3日)	猪苗代	
2019年	1月4日	～7日(3泊4日)	猪苗代*	
	1月11日	～14日(3泊4日)	猪苗代(自主ぽかぽか)	
	3月23日	～25日(2泊3日)	猪苗代	

その他のイベント

2018年	3月31日	～4月1日(1泊2日)	猪苗代	ユースチーム：エネルギーワークショップ開催
	5月12日		郡山	郡山報告会
	5月22日		横浜	エネルギーワークショップ報告会 in 横浜
	9月			ユースチーム ワークショップ・見学会
	10月		福島	ぽかぽか報告会 in 福島
	12月			ユースチーム 交流会・セミナー
2019年	3月			ユースチーム イベント

2017年度の『福島ぽかぽかプロジェクト』は、多くのみなさまのご寄付により実現しました。

改めて心より御礼申し上げます。

福島の子どものための保養はまだ必要です。引き続き温かいご支援を、どうぞよろしくお願いいたします。

ご支援、ご寄付のお願い ★税制優遇を受けることが可能です★

銀行振込

振込先：城南信用金庫 高円寺支店 普通 358434
エフ・オー・イー・ジャパン

※送金後、メールまたは電話にて事務局までご連絡ください。

郵便振替

郵便振替口：00130-2-68026 口座名：FoE Japan

※「ぽかぽか寄付」とご明記の上、差支えなければ、住所、氏名をご記入ください。

ボランティアのお願い

ぽかぽか実施時に、猪苗代や南房総に来て、子どもたちと遊んでくださる方、キッチンでお母様方と一緒に食事を作って下さる方を大募集しております。往復の高速バス代、宿泊代、食費はご用意いたします。

お問合せ先

福島ぽかぽかプロジェクト事務局：国際環境 NGO FoE Japan 〒173-0037 東京都板橋区小茂根 1-21-9

TEL：03-6909-5983 担当：矢野恵理子 090-9364-6472 eri8888yano@gmail.com

ぽかぽかブログ：<http://ameblo.jp/pokapro/>